

主 題	グループワークにおける機能向上にむけた取り組みについて
副 題	折り鶴で自立への一歩

リハビリテーション	機能向上	研究期間	6 ヶ月
-----------	------	------	------

事業所	社会福祉法人仁生社 養護老人ホーム高砂園		
発表者：中荃 節子（なかくき せつこ）		アドバイザー：神村 美沙子	
共同研究者：沼倉 結実、永井 順子			

電 話	03-3607-4060	E-mail	r-kato@jinseisha.jp
F A X	03-3607-4654	U R L	http://www.jinseisha.jp

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	所在地：葛飾区西水元 養護老人ホーム 家庭環境、生計などから居住生活が困難な高齢者に生活の場を提供する施設。 施設概要：定員140名 男性61名 女性70名 平均年齢81歳 要支援：7名 要介護1：6名 要介護2：5名 要介護3：5名 要介護4：5名 要介護5：1名 平均在園年数：5.6年 車椅子使用者：14名
------------------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

高砂園では年々高齢化が進み、ADL の低下が目立ってきている。虚弱の利用者は離床後座っていることが多く活動が少ない状態である。食事の自力摂取、衣類の着脱を目標にグループワーク（以下 GW）を通し機能向上を目指していくこととした。

現在活動のあるGWより平成21年度より活動を行っている折り鶴の会（週に一回活動）が手先を動かしながら楽しんで活動が出来るのではないかと考えた。

週に一回の活動では、各々の利用者のペースに合わせた活動をすることが困難であった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

本研究の目標は、GW の活動を通し、活動の少ない利用者を対象として手指の機能向上を期待して、折り鶴の会に取り組んだ。

期待する成果としては身の回りの整容などの自立行動の向上である。

その中でも難度の高いと思われる「洋服のボタンかけ」を最終目標に設定した。

《3. 具体的な取り組みの内容》

折り鶴の会とは平成21年度より毎年8月に平和公園へ千羽鶴の献花を行っている活動である。週に1回活動を行っている。活動時間内では各々のペースに合わせた活動をするのが難しかったため、余暇時間を利用していくこととした。

- ① 折り鶴を行う前に準備体操を行った。
- ② 折り鶴が出来ない利用者には可能な部分までを作業してもらい、次の工程を他の利用者に引き継いで完成させた。
- ③ 活動時間のほかに余暇時間を利用して活動を行った。
- ④ 余暇時間での活動は30分とする。
- ⑤ タオルたたみも同時に行っていく。

《4. 取り組みの結果と考察》

折り鶴を行う前におこなっていた準備体操（ぐーぱー）の回数を月に一回計測した。

Aさん 4月12回、5月13回、6月14回、7月12回

Bさん 4月9回、5月11回、6月16回、7月16回

Cさん 4月13回、5月14回、6月24回、7月22回

全体的に回数の向上が見られ、特にCさんは初回から大きく変化が見られ、食事などで自発的行動が見られるようになった。

30分間の活動で作る折り鶴の数は平均すると2.2個であるが、1回の活動で10個以上を一度に作る事もあった。

以前はフロア間でのコミュニケーションが希薄な状態が見られたが、同じ場所で同じ作業を協力して行う姿が見られた。

利用者同士で昔話などで笑顔で会話している姿も見られた。

《5. まとめ、結論》

整容行動の最終目標である「洋服のボタンかけ」まで自立行動の向上は見られなかったが、靴下の引き上げ動作、ズボンのあげおろしなどの整容行動が出来るようになった利用者が見られた。

大きな変化の見られなかった利用者もいたが活動を継続していくことで機能低下の防止、機能維持、向上を目指していきたい。

千羽鶴という目標を達成しても活動を継続していけるように、新たな目標を設定していきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

《8. 提案と発信》

養護老人ホームの利用者も、心身の機能低下が顕著な方が増えている状況にある。

等施設では、介護予防活動として、虚弱者を対象とした『元気いっばつ体操』や、講師の指導による『合唱』『茶道』『書道』『俳句』また職員が中心となり、『料理』『歩け歩け会』『頭の体操』等の取り組みを行い、施設全体で介護予防に取り組んでいる。

【メモ欄】